家まで届く食と健康
── JA協同サポート山口株式会社の配食サービス ──

研究員　野場隆汰

1　高まる高齢者配食サービスの重要性

高齢化が急速に進展する日本では、医療、福祉、介護等サービスへの需要がより一層高まることが予想されている。そうした事態に向けて、住民が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができるよう、医療、福祉、介護、介護予防、住まい、生活支援等が一体的に連携され、提供可能な体制である「地域包括ケアシステム」の構築が全国各地で進められている。そして、その具体的かつ重要な実施事項の一つとして高齢者への配食サービスがあげられている。

高齢者配食サービスは、単身で暮らす高齢者や要介護者の食事を作る時間がない家庭に、主菜と副菜がそろった食事を定期的に配送・提供し、利用者の食生活の質向上や健康維持をサポートするサービスである。そのため、いわゆる一般的なデリバリー業とは違い、栄養管理を徹底した献立やおかゆ・きざみ食等の特殊な加工にも対応できることなどが特徴といえる。

地域の食を支える役割を担うJAグループは、こうした高齢者配食サービスと事業面での親和性も高く、貢献が期待される。ここでは、JA山口県のグループ会社であるJA協同サポート山口株式会社（以下「サポート山口」）の配食サービスを紹介したい。

2　JA協同サポート山口（株）の配食サービス

サポート山口は現在、合併によりJA山口県のグループ会社となっているが、合併前はJA周南の介護福祉事業を担うグループ会社であった。そのため、配食サービスの主な事業範囲は、旧JA時代を踏襲し、山口県周南市と下松市となっている。

サポート山口の配食サービスにかかる仕入れや調理、配送といった作業は、同社所有の厨房（ちゅうぼう）施設であるJA給食センター「旬菜館」で行われている。旬菜館には、栄養士１人に加え、12人の調理員と16人の配送員が在籍しており、配食サービスのほか、JAの葬祭センターや介護施設への仕出し事業も行っている。また、サービス全体の業務統括は本社内の地域支援課が担当している。

サポート山口の配食サービスには週５日間と週７日間の２つのコースがあり、どちらも夕食のみの配食である。価格はおかずのみが１食税込788円、ご飯とのセットが１食税込842円となっている。１食800円前後の弁当というと、一見安くはないように思うかもしれないが、栄養バランスがきちんと計算された食事であり、それを自宅まで配送してくれることを含めての値段設定である。なお、上記の利用料金について、一部のサービス利用者は行政からの助成を受けている。

弁当のメニューのうち、とくにこだわりがみられるのがご飯である。サポート山口では、配食サービスのご飯にJAの地元産米を使用している。そのおいしさは利用者からの評判も高い。また、おかずも主菜２種を含めた８種

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

栄養バランスのとれた配食弁当
（JA協同サポート山口（株）提供）

類とバリエーションに富み、献立も毎食変えている。食事が単なる栄養摂取の行為にとどまることなく、利用者が食べることの楽しみを実感できるような工夫がされている（写真）。

3　地域の食生活というインフラを担う

配食サービスの主目的は高齢者の食生活の質向上と健康の維持にある。一人暮らしや老老介護をしている高齢者世帯では、食生活の乱れによる低栄養、健康障害も懸念される。配食による毎日の適切な栄養管理が利用者の命に関わるといっても過言ではない。

サポート山口では配食サービスを中止せざるをえないケースとして、水道、電気、ガスが止まり、調理や配送が不可能になるような深刻な自然災害を想定している。ただ、これまでも台風や豪雨によって、道路が通行止めになるなどの事態はあったが、配送ルートを変更するなどして対応してきた。その結果としてサポート山口では、2004年の事業開始から現在に至るまで、過去に厨房施設を改装した時の１回を除いて、365日年中無休で配食サービスを営業している。

また、周南市や下松市には複数の配食業者がいる。そのなかでもサポート山口には、JA組合員が在住している中山間地域や離島部などからの申込みが多いという。こうした条件不利な地域への配送は市街地に比べて高コストとなるが、そうした地域にこそ本当に困っている高齢者がいるという考えのもと、山間部への配送ルートを確保することで対応している。

以上のようなサポート山口の「なんとしても食事を届ける」姿勢には、地域の高齢者の食生活というインフラを担っているという強い責任感が表れている。

4　配食サービスと組み合わせた安否確認

サポート山口の配食サービスには、高齢者への安否確認、相談対応、困りごと解決という３種類の生活に関するサービスを提供する「安心付加サービス」が付いている。このうち、安否確認は利用者へ弁当を配送する際に、原則手渡しで声かけを行うとともに、世間話を交わすなかで体調確認や食事の残量などをチェックするというものである。

食事を届けた際に「利用者が倒れている」「家にいるはずの時間にいない」等の緊急時には、配送員が必要な対応や関係機関への速やかな連絡を行う。こうした緊急対応が必要な事態は毎年数回のペースで発生しており、安否確認は時には利用者の命にも関わる重要なサービスとして位置づけられている。

また、安否確認が付いていることがきっかけで、故郷を離れて暮らす息子・娘世代から、親のために配食サービスの申込みをするケースもあるという。サポート山口の配食サービスは、地域の高齢者の食を支える一方で、一つの親孝行の形として、故郷を一度離れた人々とのつながりにも寄与している。

（のば　りゅうた）